

おまけの、おまけシリーズ 「総集編」

「ガーディアンの気持ち」ならぬ「私の独り旅日記」→第 12 回（まとめ）

1 年間私の拙い作文にお付き合いいただきありがとうございました。

今回は総集編として、今まで行った所で書かなかったところや、私が皆さんにお勧めの「秘湯の湯の宿」などを書いてみたいと思います。（もちろん私の独断と偏見ですから参考にはならないかもしれませんが）

昨年から本年にかけて約 2 年間の私の旅行をしたところを書いてみたいと思います。私は東北への汽車（列車）の旅が多かったのですが、車の旅や西の方にも少し行っております。なぜ北海道や東北が多いかと言いますと、単純な理由なのですが、一つは J R 東日本と J R 北海道が年に数回ですが、例えば北海道と東日本地区で 5 日間、新幹線、在来線乗り放題（指定券 5 回まで）で 26,620 円、東日本地域だけですと 15,270 円という格安チケットが購入できます。

皆さん、例えば大磯から札幌に新幹線と特急列車で往復しますと 38,000 円程掛かります。もちろん JR の乗客が少ない時を狙っての企画ですが、これを利用しての私のような暇な？そして貧乏な高齢者が沢山いるということだと思いたすが。

もう一つの理由は昔、学生時代に山登りをしたところは東北の飯豊連峰、朝日連峰、八幡平や八甲田山が多かったから、という単純な理由です。更には、なんと言っても北海道や東北は秘湯の温泉が多いことです。

（「日本の秘湯」と「秘湯・古湯」という本を参照）

『2022年』

- 1) 3月4日～8日 北海道(函館、小樽朝里温泉) 岩手県(盛岡つなぎ温泉)
宮城県(秋保温泉) 第1回(2023年1月号に記載)
- 2) 4月11日～14日 福島県(郡山)、秋田県(乳頭温泉)、青森県(不老ふ死温泉)、
第3回(2023年3月号に記載)
- 3) 6月25日～29日 (北海道→江別、富良野、十勝岳、支笏湖、然別湖)
第4回(2023年4月号に記載)
- 4) 9月1日～2日 富山県(風の盆) バス旅行…雨で風の盆が見られず残念。
2日目は白川郷→高山→平湯→島々→町田→横浜(来年またチャレンジ予定)
- 5) 9月5日～9日 北海道(定山溪、知内) 岩手県(藤七温泉、夏油温泉)
第5回(2023年5月号に記載)

- 6) 10月6日～8日 群馬→新潟→富山→石川→福井→滋賀→岐阜→愛知→静岡
この回は JR150周年記念の特別企画で在来線のみで全国全路線,在来線のみで
3日間で7,850円。 第6回(2023年6月号に記載)
- 7) 10月17日～18日 浜松、名古屋、春日井、岐阜、長野、山梨…と2日間で
700キロの車での旅。今回は友人・知人の墓参りの旅でした。
- 8) 10月19日～21日 福島県の只見線の旅。今回も3日間 JR全線7850円。
只見線が11年ぶりに全線開通。 第7回(2023年7月号に記載)
- 9) 11月27日～30日 秋田県(御所掛け温泉、花巻温泉)
第8回(2023年8月号に記載)

『2023年』

- 1) 1月18日～21日 北海道(旭川から大雪山旭岳温泉、湯元湯駒荘)
第2回(2023年2月号に記載)
- 2) 3月6日～8日 青森県(竜飛岬、バスで五所川原、五能線で秋田へ)
第9回(2023年9月号に記載)
- 3) 6月3日～7日 熊本県、鹿児島県(知覧)、福岡県(博多)、兵庫県(神戸)
この2年間で初めての西の方へ。熊本へは甥の子供たちと会食&熊本城へ。
知覧はずっと行きたいと思っていたところでした。78年前に若者達がお国の為
にと言って、片道燃料で飛び立っていったところ、暫し涙しました。
博多は知人で親友の墓参り。神戸はやはり知人で親友と再会。
- 4) 6月27日～29日 山形県(大平温泉…滝見屋。)秋田県(大湯温泉)
第10回(2023年10月号に記載)
- 5) 8月27日～29日 車で福島県(只見)→新潟経由で長野県(上高地、坂巻温泉)
上高地、白骨温泉、姫木平など周り3日で約千キロ走破(2023年11月記載)
- 6) 9月1日～3日 富山県(風の盆…知人と電車で風の盆再チャレンジ、良かった)
この2年間で初めての二人旅。富山市内観光と富山の温泉も。
- 7) 11月11日～12日 昔の山仲間13人で長野県の南アルプス前衛の山→
入笠山登山。久しぶりに山仲間との登山、きつかったが楽しかった。
- 8) 12月3日～6日 青森県(下北半島)、岩手県(宮古)～秋田へ、ローカル線の旅。
青い森鉄道、大湊線、八戸線、三陸鉄道、山田線、田沢湖線など全てワンマンカー
のローカル鉄道。乗り継ぎ待ち時間で2,3時間は当たり前だがマイッタ!
こんな旅をしている高齢の夫婦、仲良しグループなど沢山。勿論私は独り旅だ。

帰りは秋田から新幹線で東京へ、ここで珍しい体験をしました。

秋田新幹線は11両目から15両目まで。私は15両の一番後ろの席でその4列前まで地元の女子高生の修学旅行か？その車両には先生がいなくて、とにかく賑やかで、もしかして秋田弁が聞けるかと期待したが、見事に外れて、「マジ？」「ウッソー！」「ヤバイ！」そんな会話ばかりで本場の秋田弁は聞けませんでした。これは多分、テレビやスマホ、その他、都会の標準語と、やはり言葉が蔓延してしまった結果だろうと想像しました。

時々先生が見回りに来て、「他のお客様がいるのだから静かにしなさいで」でしばらくは「シーン」でした。

この2年間でJRの様々なローカル線と第3セクターと言われるローカル線に乗ったのですが殆どが単線で、しかも2両ないし3両のワンマンカー。ドアの開閉は押しボタン式。無人駅も多く、そんな無人駅では先頭車両の1番前だけしかドアが開かない仕組みです。ワンマン電車の運転手は仕事が沢山あって大変そうでした。

さらに驚くのは、無人駅は当然のこと、乗り換えなどの少し大きな駅でも、殆どの駅にはエレベーターもエスカレーターもありません。高齢者や障がい者にとってはとても不便な駅と思いました。

これも、合理化という名の経費削減だと思いますが、もう少し高齢者や障がい者に優しい駅であってほしいと思うのは私だけでしょうか？

さて、ここからが、いよいよ私のお勧めの「秘境の温泉宿」です。

2年間で「秘境の温泉宿」「秘湯・古湯」その他の温泉など20か所位行きました。その中で、私のお勧めは独断と偏見ですが、

先ず、山好き(昔、山登りをされた方)の方には

- 1位 山形県の最上川源流の大平温泉の滝見屋(山奥の一軒家。若女将が美人。)
私は今回あえて山好きな方の1位にしたのですが、しかしここに行くのは本当に大変です。今年10月のガーディアン月報(第10回)に載せましたが、小型のマイクロバスで標高1,400メートルまで登って、距離0.8キロで高低差約300メートルを歩いて下るのです。下りはまだいいですが、帰りは登らなければなりません。それを考えるとかなりの健脚でないと行けません。(私は秘湯の湯の宿を目指してただただ頑張りました。)

- 2位 岩手県(藤七温泉、彩雲荘)硫黄温泉で露天風呂が沢山ある。冬季は閉鎖。
ここの宿の床は、目にはっきり分かる位斜めになっていました。
- 3位 岩手県(夏油(げとう)温泉、元湯夏油)ここも山奥の1軒宿。熊に注意。
ここは昔湯治場の宿で、テレビもなく、当然携帯の電波も圏外でした。

次にあまり山奥でなく植物、お花畑、そして紅葉が素晴らしい所。

- 1位 秋田県、御所掛け温泉。ここも秋の紅葉と地熱利用のオンドルが最高。
- 2位 北海道、大雪山旭岳温泉、高山植物の宝庫。秋の紅葉も素晴らしい。
- 3位 秋田県、乳頭温泉郷(鶴の湯温泉と別館の山の宿)硫黄温泉と景色&料理。)
- 4位 青森県、黄金崎不老ふ死温泉(五能線、海辺の夕日の中の露天風呂は最高。)

まだまだ沢山ありますが、紙面の関係で書ききれません。

私は少し変わっているかもしれませんが初冬から真冬の本当に鄙びた1軒宿が好きですが、一般的には夏でも涼しい高原のお花畑や高山植物、秋の紅葉の季節がいいでしょうね。勿論料理も美味しく、トイレもきれいで。ここに挙げた温泉はいずれもあまり大きなホテルでなく、割と家族的ないい温泉宿です。

こんなことを書いていると、また行きたくなってきましたが。実は「日本の秘湯」という協会の中の宿の10軒泊ると1泊無料で泊れるという特典があり、今、迷いに迷っている最中です。

私も身体に気を付けながら、怪我などもしないように元気で独り旅を続けようと思っています。来年3月で石神台ガーディアンは満20年になります。健康維持のため夜の巡回も続けられるように頑張ります。皆さんも是非！

皆様、これから年末年始に向かい忙しくもなり、更には寒くなってきます。どうぞ風邪など引かれませぬよう、お身体ご自愛ください。

(by テツ&ゴン)